



驚き笑えるメコン河ツアー

前回から、3月中旬に観光旅行で訪れたベトナム（ホーチミン）のことを書かせて頂いています。

今回はまず食事についてですが、やはりエビなどのシーフードや、米粉で作った麺の「フォー」、そして日本でも手軽に買えるようになった「生春巻き」といったメニューがメジャーで、観光ツアーでも楽しめます。また、ベトナムは元仏領だったこと也有ってか、フランスパンがすごく美味しかったのも印象的。肉や卵などを挟んだ「バインミー」と呼ばれるサンドイッチは、また来た時にぜひ食べたいと思うほどでした。

一方で、ツアーガイドさんから厳重に注意されたのは「絶対に生水を飲まないこと」でした。関連して、屋台や不潔そうな場所での飲食も控えるように言われたため、毎日ミネラルウォーターを持ち歩き、食事も大手チェーンやホテル内で済ませていた私。確かに、屋台などで日本人を見かけることは少なかったのですが、驚いたのは白人系の観光客たちが、平気で屋台や市場内のデザート屋などで食事を摂っていたこと。やはり、日本は清潔過ぎてデリケートなのかしら？ ローカルな食事も楽しんでみたいな…。などと考えてしまったものの、さすがに“冒険”する度胸はありませんでした。

さて、ベトナムといえばASEAN諸国の中でも日本と昵懃にしている国の一つ…というイメージがありますし、実際に行ってみると、英語以外に日本語も通じるお店がすごく多い。というか、こちらが一言も発しなくても、商品を指差して「これは50万ドン。2300円ぐらい」などと日本語で話しかけて来るのですから、相手が日本人かどうか瞬時に分かるのにも面食らいました。



大混雑するカヌー

そして観光地としてのシステムもきっちり整っており、感心したのがホーチミンから少し南部にある「メコン川」に関する観光ツアーです。内容は、メコン川を大きなボートで支流の入り口まで移動して、そこからカヌーに乗り換え川下りを楽しむ、というもの。一瞬「沈んだりしないかな、大丈夫かな？」と心配しましたが、乗り場に着いてみると、狭い川幅いっぱいに沢山のカヌーがひしめき、ひっくり返ったり沈んだりするスペースもないほどです。

乗り込んでしばらくは、カヌーの大渋滞の中をガンガンぶつかりながら少しづつ進み、途中からスムーズになって、やっと霧囲気を楽しむ余裕が出て来ます。と同時に、終点から引き返すカヌーが猛スピードですれ違っていくのに気づき、なるほど、とにかく沢山輸送する方が商売になるから、復路はあんなに急いでいるのかも…と、たくましさのようなものに一人で笑ってしまいました。

まだまだ美味しい食事や観光地としての魅力は書き切れませんが、後編は交通事情やその他のエピソードをご紹介したいと思います。

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。

取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」(バジリコ、07年)